

小学校英語活動における児童の教科書 必要感に関する意識調査

深澤 清治・松宮 奈賀子*
(2006年11月27日受理)

A Survey on Elementary School Pupils' Needs for English Textbook

Seiji FUKAZAWA and Nagako MATSUMIYA

Abstract. This survey aimed to find elementary school pupils' needs for English textbook. Questionnaire was answered by 491 elementary school pupils who were 3rd grade and over. The result showed that more than 70% of all the 4 grades wanted English textbook and they wanted to use it when they could not understand what teachers were saying and also wanted to use it at home. In contrast, around 25% of 5th and 6th graders expressed that they did not feel the necessity of the textbook mainly because of their satisfaction with today's English education at elementary school without textbooks. Finally, the relationship between their likes and dislikes toward English and needs for textbook was discussed.

1. 研究の背景と目的

1992年に最初の研究開発学校が指定されて以来、小学校英語活動に取り組む学校の数は年々増加し、2005年度には全国の93%以上の小学校が何らかの形で英語活動を実施した(文部科学省, 2006a)。しかしながら、この約10年間の取り組みは、内容、授業頻度、指導者、指導方法などあらゆる側面において各校の自由裁量とされ、学習指導要領も教科書も存在しない中で実践であった。この学習指導要領および教科書の不在は、他の教科と小学校英語活動の大きな違いである。教科書とは、「小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教科課程の構成に応じて組織配列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書」であると定められており(教科書の発行に関する臨時措置法第2条)、全国的に教育の機会および水準の均等を保障することを目的として、すべての児童生徒が教科書を用いて学習することが義務付けられている。つまり、他教科における教科書とは、カリキュラム上の具体的な教材を組織的に配列した、指導の中核をなすものと考えら

れる。学習指導要領も、それに準拠した教科書も存在しないことは、カリキュラムも教材もないということであり、そのような状況下における指導の大変さは想像に難くない。

このように検定教科書が存在しない小学校英語活動であるが、実際には中学校教科書を発行しているいくつかの出版社から「テキスト」が既に出版されており、また、それらのテキストを使用している学校や自治体も存在する。そこには、教材なしで指導することの難しさや、カリキュラムもなく1回限りの授業を繰り返していくことの問題点を認識した教師たちからの、教科書に対するニーズがあったのではないかと考える。

また、実際に出版されたテキスト(表1)を概観すると、小学校英語活動先進校での取り組みなどを参考に、現在多くの小学校で実践されているトピックを盛り込んだものとなっているなどの共通点がある一方で、文字の扱いや、提示する会話文の長さなど各テキストの相違点も見受けられる。そこには各編者それぞれの理論があり、それに基づくテキスト作成がなされたと考えられる¹⁾。

このように、教科書を求める教師側からのニ

*広島大学大学院教育学研究科文化教育開発専攻

ズと教科書を作成する側の理論から作られたと考えられる今日の小学校英語活動用教科書であるが、教師とともに教科書を使用することになる学習者の視点はどの程度考慮されたのであろうか。山住（1982）は、学ぶ側、教育を受ける側の立場についての理解が教科書作成においては重要であるとし、「教師と子ども、あるいは教科書の執筆者・編集者と子どものあいだに高く厚い壁」を作って子どもの声が聞こえない状態になってはならないと指摘している。

現在、小学校における英語活動の教科化に関する議論が続いているが、教科になったあかつきには学習指導要領に基づいた教科書も作成されることになるかと予測される。すでにテキスト（副読本）という形で複数の児童用図書が出版されているが、改めて子どもたちの英語活動用教科書に対する意見に耳を傾けることは、今後の教科書作成に対する1つの重要な情報になるのではないだろうか。そこで本研究では次の2点を調査課題として検討する。(1)子どもたちは英語活動に対して教科書を必要と感じているのか (2)もし必要と感じているなら、どのような教科書を子どもたちは求めているのか

表1 小学校英語活動用「テキスト（副読本）」

出版社	書名
光村図書	JUNIOR COLUMBUS
開隆堂	SUNSHINE KIDS BOOK
東京書籍	JUNIOR HORIZON HI, ENGLISH!
教育出版	ONE WORLD KIDS
三省堂	KIDS CROWN
啓林館	小学生のえいご

表2 「教科書があればよいと思いますか？」に対する回答

学年	とても	まあまあ	あまり	まったく	人数総計
3年	87 (69.6%)	20 (16.0%)	10 (8.0%)	8 (6.4%)	125 (100%)
4年	63 (52.9%)	31 (26.1%)	12 (10.1%)	13 (10.9%)	119 (100%)
5年	70 (53.0%)	27 (20.5%)	19 (14.4%)	16 (12.1%)	132 (100%)
6年	59 (51.3%)	23 (20.0%)	17 (14.8%)	16 (13.9%)	115 (100%)
合計	279 (56.8%)	101 (20.6%)	58 (11.8%)	53 (10.8%)	491 (100%)

2. 調査方法

2.1 調査協力者

調査協力者はある公立小学校に所属する3年生から6年生491名であった。各学年の内訳は3年生125名、4年生119名、5年生132名、6年生115名であった。

調査協力者の在籍する小学校では、年間35時間程度の英語活動が実施されており、指導にはALT（外国人指導助手）とHRT（担任教員）または、JTE（日本人英語教員、学校常駐）とHRTがあたっている。なお、この小学校では、表1にあげたようなテキスト（副読本）は使用していない。

2.2 調査時期

調査は2005年3月に行われた。

2.3 調査手順および質問項目

調査は質問紙調査であり、各担任教員によって実施された。

子どもたちの教科書必要感を尋ねる質問項目として「英語の教科書があればよいと思いますか？」を用意し、4件法による回答を求めた。また、上記質問を受けて「なぜそう思いますか？」という自由記述質問を設け、子どもたちがどのような教科書を求めているかを検討することとした。

3. 結果

3.1 4件法「教科書があればよいと思いますか？」

児童の英語活動における教科書必要感を尋ねた「教科書があればよいと思いますか？」に対する回答（表2）からは、どの学年でも半数以上の子どもたちが強く教科書を必要と感じており、「とても」と「まあまあ」をあわせた教科書の存在に対して肯定的な意見は70%を超えていた。

小学校英語活動における児童の教科書必要感

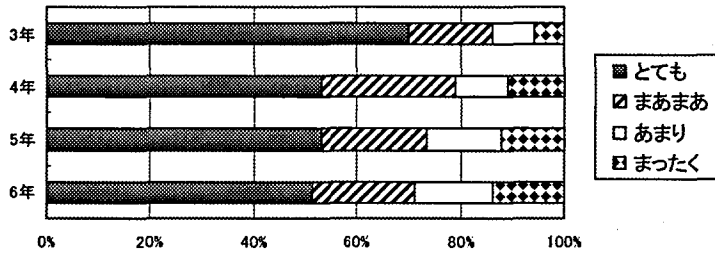


図1 「教科書があればよいと思いますか？」に対する回答

一方で、教科書は必要ないという意見は高学年において多く、5, 6年生では25%を超える児童が教科書の必要性を感じていないという結果であった。

なお、「とても」を4点、「まあまあ」を3点、「あまり」を2点、「まったく」を1点として学年ごとの教科書必要感の平均値を求めたところ、3年生は $M=3.49$ 、4年生は $M=3.21$ 、5年生は $M=3.14$ 、6年生は $M=3.09$ であった。また、学年間における平均値の差を分散分析により検討した結果、 $F(3, 487)=3.72$ 、 $p=.01$ であり、学年間における平均値の差は5%水準で有意であった。さらにテューキーの方法による多重比較をおこなった結果、3年生と5年生および3年生と6年生の間で、その差が有意であった。

また、英語活動に対する好意度(好き嫌い)と教科書必要感がどのような関係にあるのかを検討するため、4件法による質問項目「英語活動は好きですか」に対する回答との相関係数を求めたところ、 $r=.36$ であった。また、英語活動に対する好意度と教科書必要感に対する回答をクロス表にしたものが表3である。その結果、英語活動を「まったく好きではない」と否定的に感じている児童のほとんど(88.9%)が教科書を「まったく必要ない」または「あまり必要ない」と答えてお

り、英語活動を「あまり好きではない」と回答した児童では57.6%が教科書を「まったく」および「あまり」必要ないと思っていることが明らかになった。一方、同様の「教科書は必要ない」という児童の割合は、英語活動が「まあまあ好き」な児童で28.8%、「とても好き」な児童では11.7%であった。教科書を必要ないと感じる児童の割合は英語活動に対する好意度が高くなるにつれて減少するという傾向が見られた。また、英語活動が好きでない児童の中に「とても」教科書があればよいと思うと回答した児童が少数ながらいたことは特筆すべき結果と考えられる。

3.2 自由記述「なぜそう思いますか？」

次に、なぜ教科書を必要と思うのか、あるいは必要ないと思うのか、その理由を尋ねた自由記述を検討する。自由記述回答の分析は、上記4件法の質問に対する回答別に行った。分析にあたっては、自由記述回答をすべてカード化し、近い意見をまとめていくことにより分類していった。なお、分析は学年別にも行ったが、意見内容に学年による違いは見受けられなかったため、教科書必要感の違いによる分析についてのみ言及していく。

まず、4段階評定において「とても」「教科書があればよいと思う」と回答した子どもたちの自

表3 「英語活動に対する好意度」と「教科書必要感」のクロス集計表

		英語の教科書があればよいと思いますか？				人数合計
		とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない	
好きですか？ 英語活動は	とても好き	188	46	12	19	265
	まあまあ好き	82	49	33	20	184
	あまり好きではない	8	6	11	8	33
	まったく好きではない	1	0	2	6	9
人数合計		279	101	58	53	491

由記述を検討する。代表的な意見は次の3点であった。まず第1は「自学・家庭学習」に活用できるからという意見や「もっと英語の勉強がしたいから」、「いろいろな英語を知りたいから」など「前向きさ」から今よりも「さらに前進」することを期待する意見である。第2に、「授業がより分かりやすくなるから」、「より覚えやすくなるから」、「授業中に分からなくなったときに参照できるから」、「今の授業のやり方では、よく分からないことがあり、それを解消してくれるだろうから」など「現状改善」に活用したいという意見、第3に、教科書によって「読み書きができるようになるから」、「もっと話せるようになる」、「発音が上手になるかもしれない」など教科書によって読み書きや全体的向上を期待する「上達志向」に起因すると思われる意見が代表的なものとして出された(表4)。

次に「まあまあ教科書があればよい」と感じている児童の自由記述結果を同様に分類した(表

5)。その結果、「もっと勉強したいから」教科書があればよいといった前向きさに起因する意見が減少したことが分かる。その一方、「まあまあ教科書があればよい」と答えたものの、「文字だけでは発音は分からない」、「先生たちのことばから学べばよい」などの現状を肯定するがゆえに教科書は必要ないという意見が現れたことが特徴的であった。

次に「あまり教科書は必要ない」と感じている児童の自由記述を検討していく(表6)。前述の教科書を必要と感じている理由は、いずれも英語活動に対して肯定的なものであったが、教科書を不必要と感じている理由は、英語活動に対して肯定的であるがゆえの意見と、教科書の活用に対する否定的な意見、あるいは英語活動そのものに対する否定的感情に起因する意見と、まったく異なる考えが代表的な理由として挙げられた。「現状に対して肯定的な意見」としては、「口頭で説明してもらおうほうが分かりやすい」、「会話だけでも

表4 「とても教科書があればよい」という児童の自由記述

分類		6年 (n=59)	5年 (n=70)	4年 (n=63)	3年 (n=87)
さらに前進	自学・家庭学習	27 (45.8%)	25 (35.7%)	13 (20.6%)	13 (14.9%)
	前向き	4 (6.8%)	2 (2.9%)	3 (4.8%)	5 (5.7%)
現状改善	より分かりやすくなる	5 (8.5%)	25 (35.7%)	18 (28.6%)	19 (21.8%)
	授業中補助	3 (5.1%)	0 (0.0%)	6 (9.5%)	3 (3.4%)
	現状不満	3 (5.1%)	2 (2.9%)	3 (4.8%)	1 (1.1%)
上達志向	読み書きへの期待	9 (15.3%)	9 (12.9%)	6 (9.5%)	14 (16.1%)
	全体的向上	7 (11.9%)	5 (7.1%)	5 (7.9%)	14 (16.1%)
	その他	1 (1.7%)	2 (2.9%)	9 (14.3%)	18 (20.7%)

表5 「まあまあ教科書があればよい」という児童の自由記述

分類		6年 (n=23)	5年 (n=27)	4年 (n=31)	3年 (n=20)
さらに前進	自学・家庭学習	7 (30.4%)	4 (14.8%)	2 (6.5%)	3 (15.0%)
	前向き	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)
現状改善	より分かりやすくなる	0 (0.0%)	9 (33.3%)	8 (25.8%)	2 (10.0%)
	授業中補助	3 (13.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)
	現状不満	1 (4.4%)	3 (11.1%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)
上達志向	読み書きへの期待	3 (13.0%)	3 (11.1%)	3 (9.7%)	2 (10.0%)
	全体的向上	4 (17.4%)	2 (7.4%)	6 (19.4%)	2 (10.0%)
現状肯定	教科書必要なし	1 (4.4%)	3 (11.1%)	8 (25.8%)	4 (2.0%)
	その他	4 (17.4%)	3 (11.1%)	2 (6.5%)	3 (15.0%)

表6 「あまり教科書は必要ない」という児童の自由記述

分類	6年 (n=17)	5年 (n=19)	4年 (n=12)	3年 (n=10)
現状肯定	6 (35.3%)	10 (52.6%)	8 (66.7%)	2 (20.0%)
活用できない	4 (23.5%)	4 (21.1%)	1 (8.3%)	5 (50.0%)
不安	1 (5.9%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
マイナス的理由	0 (0.0%)	2 (10.5%)	1 (8.3%)	2 (20.0%)
その他	6 (35.3%)	1 (5.3%)	2 (16.7%)	1 (10.0%)

表7 「まったく教科書は必要ない」という児童の自由記述

分類	6年 (n=16)	5年 (n=16)	4年 (n=13)	3年 (n=8)
現状肯定	9 (56.3%)	9 (56.3%)	9 (69.2%)	3 (37.5%)
活用できない	2 (12.5%)	5 (31.3%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)
マイナス的理由	3 (18.8%)	2 (12.5%)	1 (7.7%)	2 (25.0%)
その他	2 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	1 (12.5%)

覚えられる」、「教科書があると自分から進んでしゃべれない」、「英語活動を楽しむのには教科書は必要ない」などの意見が出された。これらの肯定的意見と並んで大多数を占めた意見が、「英語は読めない」、「英語で書いてあると分からない」から「活用できない」というものであった。また、教科書を用いての授業では「ついていけなくなりそう」、「分からなくなりそう」といった他の児童と差がついてしまうことを「不安」に思っている意見も見られた。さらには、非常に少数意見ではあったが、「英語は好きではないから」、「英語が下手だから」教科書は必要ないという「マイナス的理由」も挙げられた。

最後に、4段階評定において「まったく」教科

書があればよいと思わない子どもたちの自由記述を検討する(表7)。教科書を不必要と答えた代表的理由は「現状肯定」であった。詳細には「見るより聞いてやったほうが覚えやすい」、「教科書があると堅苦しい授業になりそう」「言葉と目があれば話せる」などの意見である。このような現状に肯定的であるからこそ、新たに教科書は必要としていないという意見の他には、「英語を読むことができないので使えない」という「活用できない」から必要ないという意見や、英語に対するネガティブな感情に起因する「マイナス的理由」も見られた。

以上の結果をグラフにまとめたものが下の図2および図3である。

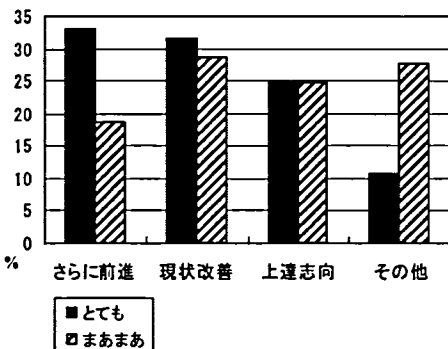


図2 「とても」と「まあまあ」自由記述

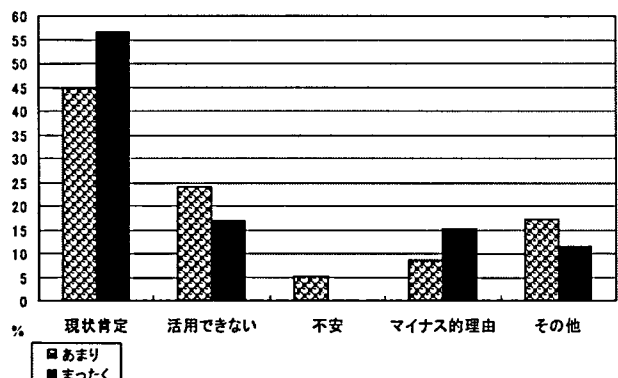


図3 「あまり」と「まったく」自由記述

4. 考察

まず、「教科書があればよいと思いますか」の問いに対してどの学年も半数以上が「とても」あればよいと思うと回答し、「まあまあ」も含むと各学年70%を越える児童たちが教科書を必要と感じていたが、中でも3年生の回答は目立って「必要と思う」という意見が多かった。この背景として、3年生は英語が好きだから、英語に関するものは喜んで受け入れたいという気持ちが働いたのではないかと推察される。一方、4年生以上では現在の英語活動に対して肯定的であるがゆえに教科書は必要ないという意見が3年生と比べて多く見られた。これは、学年が上がるに従って、現在の英語活動のあり方の良さや課題点、また教科書を実際に使う場面を想像した上での教科書の良さや課題点などをしっかり想像できるようになり、そのため「英語が好き」という感情と「教科書は必要か」どうかをじっくり考えた結果ではないかと考えられる。5、6年生では、「教科書は必要ない」という意見が増加傾向にあったことも同様の理由と考える。

次に自由記述について考察するにあたり、教科書必要、不必要それぞれの意見分類を大まかにまとめた図を下に示す。

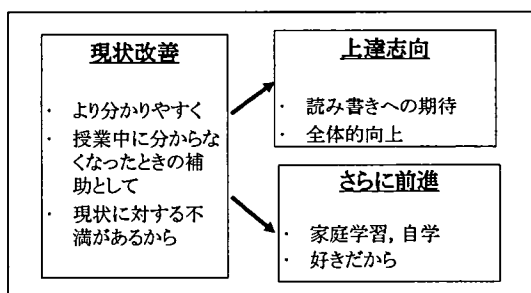


図4 「必要」自由記述

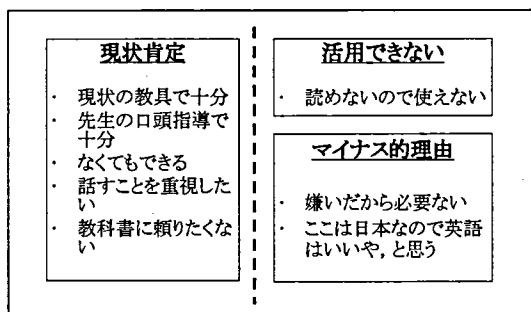


図5 「必要なし」自由記述

「教科書があればよい」と考える児童の、その理由を問う自由記述からは、子どもたちの多くが、自宅でも学習したい、もっと英語を勉強したいという前向きな気持ちを持っていることが明らかとなった。そのような肯定的意見の中、「今の授業のやり方では、よく分からないことがあり、それを解消してくれるだろうから」、「どこをやっているのか分からなくなることがあるから」教科書があればよいという意見も出されていた。現在の小学校英語活動では基本的に指導者が口頭で提示したものを子どもたちが練習し、覚え、自在に再生できるようになることを求めることが多い。児童は指導者の動きや表情を参考にしながら、意味を考え、初めて聞く音声を暗記しなくてはならないのである。このような活動は、学年が上がり、導入される言語がより複雑かつ、より長くなっていくと、暗記を求められる児童への負荷が高くなるものと思われる。今回、教科書に対する希望として挙げられた「授業中の難しさを解消する術になってほしい」という意見は、現在の英語活動を振り返る上でも貴重な意見と考えられる。

また、少数派ながら、英語活動自体は嫌いだけど、教科書は欲しいという意見が出されたが、これらの意見は音声のみに頼る今の英語活動のやり方には難しさや嫌悪を感じているが、教科書があれば頑張れるかもしれないという児童の期待が込められた意見ではないであろうか。このような児童は今後のケア次第で英語活動を好きになる可能性があり、その際に教科書が何らかの役割を果たす可能性が示唆されたと考えられる。

一方、「教科書は必要ない」という意見に対する理由としては、現状の英語活動に肯定的だからこそ必要ないという意見が代表的なものであった。この意見は、上述のように現在のやり方に難しさを感じている児童がいる一方で、口頭での活動を中心とした現在のあり方に満足している子どもたちも存在することを示している。口頭でのコミュニケーションを中心として、人と意思疎通を図る力を伸ばしたいという今日の小学校英語活動の方向性に対する賛同とも考えられる。

反対に英語活動そのものに対する好意を失ってしまっており、それゆえに教科書も必要ないという意見があったことも重要な結果である。教科書が必要か否か、あるいはどのような教科書が望ま

しいかということ以前に、英語活動そのものが嫌いになってしまっている子どもたちがいるということ認識し、その原因を追究することが必要と考える。すべての児童が英語活動を好きになることは容易なことではないが、小学校段階から英語嫌いを作らないことが第1に求められる小学校英語活動であることを考えると、対処法を模索することは重要な課題と考える。

最後に、教科書を必要と回答した子どもたちからは「読み書きへの期待」を表す意見が出され、一方、教科書を必要ではないと回答した子どもたちからは「読めないから活用できない」という、ともに「読み」に関する意見が出された。その理由として、今回調査に参加した児童たちは実際には英語の教科書（市販の副読本）を使用した経験がなく、「教科書」ということばの響きから、他教科と同じような「読み」活動が中心を占めると想像したのではないかと推測される。しかしながら実際には教科書使用イコール読みになるわけではなく、読めないから活用できないという事態が必ずしも起こるというものではない。ただし、読み書き学習に関心を持っている子どもたちもいるということは、小学校英語活動開始当初はほぼ完全否定されていた文字の扱いに関しても検討していく必要があることを示唆していると考えられる。

5. まとめ

本調査から子どもたちの多く（70%強）が教科書があればよいと希望しており、特に自宅で振り返ったり、授業中に分からなくなった時などに補助的に活用したりすることを教科書の役割として求めていることが明らかになった。また、現在の英語活動のあり方に満足しているからこそ、教科書は必要ないという意見を考慮し、現在の音声中心学習を支える補助的なものであることも求められるであろう。さらには、教科書の存在により、英語活動がより複雑で難解なものとなり、その結果授業についていけなくなることを心配して教科書を必要ないと回答した子どもたちもいることから、やはり「好き・楽しい・話せる」を目指す現在の英語活動の良さを失わない教科書が望まれると考える。

教科書は指導に枠組みと道筋を与えてくれるが、逆に考えると自由で個性的な授業を制約する

機能をも持っている（学校制度を考える会、1982）。本調査において子どもたちから出された意見からは、他教科のように学習のベースとなるための教科書ではなく、現在の教科書を用いない活動をより分かりやすく、より豊かにするための補助的教材としての要素が、小学校英語活動の教科書に求められる特徴と考えられる。

6. 今後の課題

今回、子どもたちの教科書必要感および子どもたちが望む教科書像を検討したが、子どもたちは「英語活動用教科書」というものを実際には手にした事がなく、他教科の教科書からの推測によって、本調査に答えたと思われる。本調査は、ある公立小学校の子どもたちが「教科書があればこうなるであろう」、だから「教科書がほしい」あるいは「必要ない」という意見を調査したものであり、実際に児童が教科書を使用した上での感想を問うものではなかった。

今後は、実際に一部の小学校で活用されているテキスト（副読本）の内容、構成を検討し、また、実際に使用している小学校の児童に対する調査を実施することにより、本調査から得られた結果をより発展させていくことが重要と考える。

さらには、カリキュラムの作成から実施までの中心的役割を担うHRTたちの教科書必要感も調査することにより、まだ限られた小学校においてのみ導入されている教科書の今後の活用可能性についても検討したい。

注

- 1) 小学校英語活動用の「テキスト」は「副読本」という位置づけであり、「教科書」とは呼ばれていないが、それに従って授業を展開していくことにより1年間の単元を構成できる、年間カリキュラムとしての役割を果たせる内容となっており、「教科書」的要素が強いものとなっている。また、調査において、「副読本」や「テキスト」という表現より「教科書」の方が児童にとって分かりやすいことから、質問紙調査においては「教科書」の表現を用いた。また、同様の理由からタイトルおよび本文中にも「教科書」ということばを用いることとする。

文献

- 稲川誠一監修・若井勲夫編 (1982) 『教育刷新への提言シリーズ2 明日の日本の教育をどうしたらよいか 教科書をどうすべきか 国語編』日本工業新聞社.
- 大杉正明監修 (2003) 『Junior Horizon Hi, English Book 1 小学校英語活動・国際理解副読本』東京書籍.
- 大杉正明監修 (2003) 『Junior Horizon Hi, English Book 2 小学校英語活動・国際理解副読本』東京書籍.
- 片岡徳雄編著 (1987) 『教科書の社会学的研究』福村出版.
- 柴田義松編 (1983) 『教科書 子どもにとってよい教科書とは』有斐閣選書.
- 影浦 功監修 (2004) 『小学生の英語 BOOK1-3 小学校英語活動副読本』啓林館.
- 東後勝明他編 (2004) 『小学校英語活動用テキスト JUNIOR COLUMBUS 21 BOOK 1-2』光村図書.
- 松本青也監修 (n.d.) 『小学校英語アクティビティ・ブック Sunshine Kids Book 1-2』開隆堂.
- 文部科学省 (2005) 『教科書制度の概要 教科書とは』 Retrieved April 20, 2006, from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyouka sho/gaiyou/04060901/001.htm
- 文部科学省 (2006a) 『小学校英語活動実施状況調査 (平成17年度) の主な結果概要』 Retrieved April 20, 2006, from http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06031408/001.htm
- 文部科学省 (2006b) 『小学校における英語教育について (外国語専門部会における審議の状況) (案) (反映版)』 Retrieved April 20, 2006, from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/015/06032708/003.pdf
- 山住正己 (1982) 『学校教科書』朝日新聞社.
- 渡邊時夫他編 (2004a) 『小学校英語活動用テキスト KIDS CROWN スタンダードコース』三省堂.
- 渡邊時夫他編 (2004b) 『小学校英語活動用テキスト KIDS CROWN アドバンスコース』三省堂.

資料

子どもたちから出された自由記述意見の一覧を下記に示す。なお、内容的に同一の意見は1度のみ登場させる。

教科書があれば自学・家庭学習ができる

- ・家にかえってからでも学習できる
- ・教科書があれば自分で何回も復習できる
- ・1度忘れてしまっても復習できる

前向きさゆえに教科書がほしい

- ・もっとたくさん学習できるから
- ・いっぱいしゃべれるようになりたいから
- ・勉強になるから
- ・いろいろな英語を知りたいから
- ・もっと勉強したいし、本格的に授業してほしい
- ・週2回しか授業がないから
- ・今は遊びのようにやっているが、もっとしっかりやりたい

教科書があれば、授業がより分かりやすくなる

- ・ことばだけでやるより、教科書のようにまとめてあると理解しやすい
- ・聞き逃したことが分かる
- ・覚えやすくなる
- ・英語の意味が分かるようになる
- ・聞いて覚えるだけより教科書がある方が速く覚えられる

教科書を授業中の補助として使いたい

- ・もし困ったとき役立つ
- ・分からないとき、教科書を見たら分かる
- ・聞くだけでは分からない英語があっても、教科書を見れば分かるから
- ・字を見て答えられるから
- ・会話中に分からなくなったり、聞き取れなかったとき、見れる
- ・今、どこをやっているのかわからなくなったときに役に立つ

現在の授業に難しさ（不満）を感じているから教科書がほしい

- ・よく分からないときがあるから、教科書があ

れば役立つ

- ・先生がはなしていることだけでは分からない部分がある
- ・どんなふうに話しているのか分からないから
- ・ことばだけではよく分からないから
- ・先生の言うことが分かりづらい
- ・先生が板書すると間違えてしまうことがあるから

教科書に読み書き学習を期待する

- ・教科書があれば読めるようになるから
- ・教科書があれば書けるようになるから
- ・文字と読み方を一緒に学べる
- ・話すことに加えて、それを書けるようになりたい

教科書の使用によって英語知識や技能全体が向上すると考える

- ・いろんな英語が覚えられる
- ・英語が話せると外国人に話しかけられても答えられる
- ・もっと話せるようになるから
- ・すらすら言えるようになるから
- ・英語のことがいっぱい詳しく調べられるから

その他（「教科書があればよい」と思う児童）

- ・便利だから
- ・将来使うときがあるかもしれないから
- ・聞いて話すだけだと忘れるから
- ・これからは英語が必要
- ・外国の人と教科書を見ながら話せるから
- ・なんとなくあった方がいい
- ・国語などみたいに授業ができるから
- ・日本人でも英語の教科書があれば英語が使えるから
- ・かっこよさそうだから
- ・いろんなページが開けるから
- ・外国に行ったとき、教科書を見ながら話せるから
- ・CD付きがいい

現在の英語活動に満足しているからこそ教科書は必要ない

- ・先生たちに教えてもらったほうが分かりやすい
- ・口で説明したほうが分かりやすい
- ・教科書では発音が分からない
- ・会話だけでも覚えられる
- ・教科書があると自分で分かろうとする気持ちが薄れる
- ・教科書があるとそれに頼ってしまうから
- ・堅苦しい授業になりそう
- ・ダンスとかがなくなるかもしれないから
- ・人とかかわりたい
- ・せっかく英語専門の先生がくるから
- ・英語を楽しむのには必要ない
- ・教科書にしたがっていくとゲームとかできない
- ・学校にはカードがいっぱいあるからそれで十分
- ・黒板に書けばいい
- ・教科書がない方が面白い

文字が読めないので、教科書があっても活用できない

- ・読めない
- ・英語で書いてあるとよく分からない
- ・何が書いてあるか分からない

マイナス的理由から教科書はほしくない

- ・あまり英語が好きじゃないから
- ・学校でやってもつまらない
- ・ここは日本なので英語は別にいいや、と思うから
- ・勉強量が増える

その他（「教科書は必要ない」と思う児童）

- ・お金の無駄遣いだと思う
- ・忘れ物になりそう
- ・荷物になる